

我が国の省庁等、政府系機関からは日々多種多様な情報が発信されます。(株)現代文化研究所はその中から広くモビリティに関する注目情報を所定期間にわたりピックアップ、テーマを設定した上で、その切り口から関連情報を整理し、お伝えします。

【今週のテーマ/注目情報】*モニタリング期間：2020年1～9月

コロナ禍での交通事故の発生状況- 9月

<概要>

9月の交通事故発生件数は、前年同月比84%となり、9月21日～30日で秋の全国交通安全運動が実施されたが、前年同月比との減少幅が3月以降で最も小さくなった。(図表1)
1～9月累計での原付以上運転者(第1当事者:事故の当事者の中で一番過失責任が重い人)の年齢層別死亡事故の上位法令違反を見ると、全体では「漫然運転/15.3%」が最も多く、次が「運転操作不適/14.8%」、3番目が「安全不確認/12.7%」となっている。(図表2)

<当社の視点>

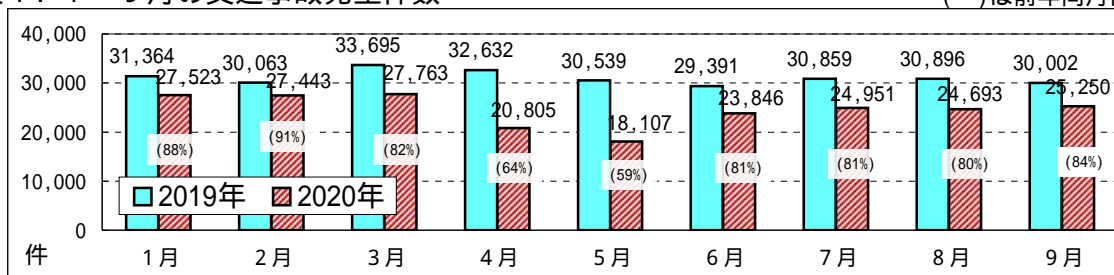
コロナ禍での移動人口減少により、交通事故が減少していると考えられるが、9月の移動人口動向の前年同週比(V-RESAS)は、第1週 17%、第2週 19%、第3週 10%、第4週 15%と、前年同週を20%以上下回る週は無かった。
高齢者以外でも「運転操作不適」による死亡事故が発生しているが、日本の事故の場合、アクセルとブレーキの踏み間違い等、トランスミッションがマニュアルであれば起こりにくい事故も少なくなく、事故の背景要因としてオートマチック車の高い普及率(2018年販売車中のオートマチック車比率98.6%：日本自動車販売協会連合会)を指摘する声もある。

ドイツの2018年販売車中のオートマチック車比率は47.5%

(備考：ドイツの場合は、高速道路に料金所が無い場合、通行区分不注意による高速道路での逆走が問題になっている)

図表1. 1～9月の交通事故発生件数

()は前年同月比



図表2. 原付以上運転者(第1当事者)の年齢層別死亡事故の上位法令違反

1～9月累計

年代	1位	2位	3位
20代以下 282件*1	最高速度 15.6%*2 (15.0%)	運転操作不適 13.5% (12.3%)	漫然運転 12.8% (14.1%)
30代 187件	漫然運転 18.2% (19.3%)	歩行者妨害等 12.8% (5.3%)	運転操作不適 12.3% (9.7%)
40代 293件	安全不確認 18.1% (12.2%)	漫然運転 15.7% (20.1%)	脇見運転 9.6% (15.7%) 歩行者妨害等 9.6% (8.4%)
50代 277件	漫然運転 17.7% (15.9%)	安全不確認 17.0% (13.8%)	運転操作不適 12.6% (11.3%)
60代 267件	漫然運転 15.0% (20.2%)	脇見運転 12.4% (11.1%)	安全不確認 11.6% (13.0%)
70代 240件	運転操作不適 20.8% (16.4%)	漫然運転 16.7% (14.8%)	安全不確認 10.0% (9.4%)
80代以上 136件	運転操作不適 37.5% (26.5%)	漫然運転 9.6% (12.3%)	通行区分 6.6% (8.6%)
全体 1,682件	漫然運転 15.3% (17.0%)	運転操作不適 14.8% (12.8%)	安全不確認 12.7% (11.3%)

*1:死亡事故発生件数 *2:当該違反による死亡事故発生率(前年発生率)

[用語補足] 漫然運転: ボンヤリ運転や他のことを考えていた等の運転に集中していない運転

運転操作不適: ブレーキペダルの踏み間違い、ハンドル操作の過ち、片手運転等

安全不確認: 一時停止や減速をただで、左右確認等の安全確認を十分に行わなかった運転

出典: 警察庁「交通事故統計」、V-RESAS(内閣府 地方創生推進室 ビッグデータチーム)、日本自動車販売協会連合会
お問合せ: (株)現代文化研究所 市場戦略情報第1領域 <https://www.gendai.co.jp/inquiry>